

気になるニュース わたしの視点

9月14日付の中濃地域面に「防災、かるたで啓発 武義高の『未来創造課』が作成」という記事が出ていました。

「未来創造課」というのは、

美濃市と県立武義高校が連携し、市役所の中に武義高校の生徒のみで構成され、高校生の視点から美濃市の将来に向けた活動を企画・提案・推進する活動です。本年度から実質的な活動が始まっています。

形としては、1年間にわたるインターンという形になっていますが、課長会議や市長レクにも参加するなど、行政の仕事に関わりながら、「まちづくり」や「地域の課題解決」などの推進を行うもので、すでに美濃市民花火大会の有料観覧席の設定といった観光事業も展開しています。自治体と学生が協働する取り組みは、他の地域でもありますが、学生が実際の行政の中で活動

道家経営・法務事務所代表 道家睦明さん



かるたで防災啓発



「うだつとは防火壁の一種 立派だね」
防災、かるたで啓発

武義高の「未来創造課」が作成した「かるた」は、防災啓発を目的として、市役所と連携して作成された。学生たちは、防火壁の重要性をかるたで表現し、市民への啓発に努めている。また、防災意識を高めるための活動として、市民会館などで展示が行われた。

9月14日付中濃地域面より

武義高生、無限の未来創造力

できるようになっていきます。高校生があえて「かるた」を採用した背景には、防災意識に限らず、断片的かつ一方的な情報で判断しがちな情報環境にある最近の社会に対して、学生の視点から、問題提起をしているかのようです。

するというスタイルは、国内でも初の試みのようです。産業界においても、副業や兼業が進み始めるなど、いろいろな場面で、既成の枠組みが取り払われているようです。広い意味でのダイバーシティの流れが来ているのかもしれない。

どうせ・むつあき 1965年、羽島郡笠松町生まれ。慶応大商学部卒。中小企業診断士、行政書士。広告会社勤務を経て、道家経営・法務事務所代表取締役。2020年から愛知県立芸術大非常勤講師も務める。笠松町在住。

さらに、「未来創造課」が啓発するツールとして「かるた」を採用したことも注目ポイントがあります。「かるた」には、五十音という網羅性とともに、一枚一枚にメッセージを入れることができるコミュニケーション性、さらには、絵札と読み札を合わせるといったゲーム性がありま

す。中には「うだつとは、防火壁の一種 立派だね」「にわか茶屋 道の駅なのに防災拠点等、地域に根差したのも開発されており、世代を超えて、防災意識を高めることが



デジタル
会員登録は
こちら